

サンテ溝上病院がリニューアルオープン 脳卒中の予防からリハビリまでワンストップで

大財通りの西側にひと際目立つ白い建物。今までにはなかった方法で脳卒中を専門とするサンテ溝上病院です。脳のスペシャリスト3人の医師が常勤し、他職種と脳卒中チームを組んで治療に当たります。新規スタートへの思いを、理事長で院長の溝上泰一朗先生に伺いました。



医療法人 同愛会 サンテ溝上病院
理事長・院長 溝上 泰一朗さん
Mizokami Taichiro

脳卒中を発症してから 復帰するまでを診ていきたい

院内に入ると体温計があり、顔を近づけると、「36・5度です。お入りください」と素敵なアナウンスが返ってきました。窓越しに広がる木々が目に優しく爽やかでホテルのロビーを彷彿させます。診察室のドアには「オンライン面会中」の札がかかっています。溝上先生は二番の想いは脳卒中医療です。脳卒中はある日突然発症し、救急車で急性期

病院に運ばれ、緊急の治療が行われます。状態が落ち着いたら、回復期リハビリ病院に転院し、社会復帰までのリハビリテーションを行います。従来は別々の病院で連携を組んで行われてきました。しかし、ここ数年で特に脳梗塞のカテーテル治療の発展により、脳卒中の医療が激変しました。これをきっかけに、脳卒中に対して、最初から最後まで専門性を持ってできる病院ができないか？それができたらより多くの地域の皆さんのお役にたてるのではないかと、という想いを持っていました。昨年9月に同愛会 副島病院を引き継ぐという縁があり、この想いを実現する挑戦を始めたところ。脳卒中という病気が脳の血管の病気ですが、病気が血管に起こるわけで、脳だけに起こるわけではありせん。当院では、血管に関連する診療科として、循環器内科(佐藤恭一)に加えて、血管外科の医師(奈田慎一)を迎えて血管外科を新設しました。全身の血管病に対応できるようにしています。また、脳卒中

や筋肉の専門家である整形外科との結び付きが重視されます。整形外科も新たな常勤の医師(野田明生)とリハビリテーションについて協力しながら進めています。良質な脳卒中医療のためには、医療機器も重要です。昨年刷新した最新型のMRIは、正確な診断に役立つ他にも、患者さんが音楽を聴いたり映像を見たりしながら検査を受けることができ、負担軽減にも一役かっています。また同様に最新型のCTでは、AI技術により患者さんの被曝量を最小限にする工夫も行っていきます」と熱心に語ります。

急性期から 回復期までのリハビリを

「僕も含めて3人の脳卒中専門医(上床武史、尤郁偉)は、今までのいろいろな救急病院で脳卒中の患者さんの病気の入口を担当してきました。しかし、それは患者さんからすると、長い闘病生活のごく一部に過ぎません。治療した患者さん達が、転院した回復期リハビリ病院で専門的なリハビリの後に驚くよう

によくなくて、外来に来られるのを見ると、脳卒中医療の大半はリハビリで支えられていると考えるようになりました。脳卒中医療を行うには、まずリハビリの強化というのを第一目標に掲げています。緊急入院や転院で入院して来られた患者さんに、集中的にリハビリを行う回復期リハビリテーション病棟を5月に新設しました。また、1階には外来通院してできるリハビリテーションセンターも新設。これらリハビリ体制の強化は、「地域の皆様が健康に老いる事をお手伝いする」という当院の使命のため、骨や筋肉の病気、心臓の病気のリハビリにも広がっていきます。また、介護保険を利用できる通所リハビリセンターを併設し、短時間通所リハビリも準備中です。リハビリを通じて地域の皆様の健康寿命を支えることができましたと夢見ています」。

脳卒中になって しまったときのために

「言葉が出ない、物を落とすしてしまう、口から食べものがこぼれてしま

◀リハビリテーションセンター。
14名の理学療法士、
8名の作業療法士、
2名の言語聴覚士がサポート。



うなどの脳卒中の症状は、いつ誰の身に起きてもおかしくありません。発症からできるだけ早く治療できる病院に辿り着くことがとても大事です。特にカテーテル治療の進歩により、以前は亡くなったり、寝たきりになっていただろう脳梗塞の患者さんが、歩いて帰れることも可能となりました。佐賀で脳卒中になつても助かる患者さんが一人でも増えるように、救急医療や医療機器を現在整備中です。この体制の実現は当院のような小規模病院では決して簡単ではありませんが、脳神経外科2名、脳血管内科1名の脳卒中専門医を中心とした脳卒中チームで取り組んでいきます。とはいえ、脳卒中にはならないことが一番大事です。脳の血管が詰まったり破れたりする背景には、高血圧、糖尿病、脂質異常症の生活習慣病や不整脈が隠れています。日常の生活習慣管理のかけつけ医を持つこ

とが大事で、当院もその役割を果たしますし、脳血管の専門医として、周囲のかけつけ医の先生方と協力していきたいです。病気がなつた後の治療よりも前の予防が本当に大事であるとの思いから、予防医学健診センターを新設しました。センター長(古川次男)が中心となり、最新の医療機器を用いて、健康診断、人間ドックを行っていきま。外科医師(樋口隆一)による胃カメラ、大腸カメラには定評があります。特に力を入れているのが脳ドックです。脳のMRIの診断は我々の得意分野なので、忙しい世代にも負担なく受けていただける工夫をしていきたいと思っています」。

下肢静脈瘤のレーザー治療

「下肢静脈瘤は女性に多い病気で、足のだるさやむくみなどを起こします。当病院は、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施施

設として認定されており、治療経験豊富な血管外科(奈田慎一)による治療を行っています。民間病院での治療は佐賀では初めてだと思えます。足の血管のぼこぼこの見た目が気になる、足のだるさ、むくみなどで悩んでいる方、どこの病院に行ったらよいか、何科に見せたらよいか悩んでいる方は気軽にサンテ溝上病院血管外科にご相談ください。入院治療については2泊3日の短期入院や、入院が困難な方のため日帰り入院も対応しています」と語る。

脳卒中は起きてしまうと人生を奪ってしまうこともある病気です。近くに脳卒中専門病院があることは、安心できることだと思います。何より予防が大事なので、頭痛やめまいなど気になる症状があれば、サンテ溝上病院をおすすめします。

取材/吉永恵美子



▲明るく開放的な院内で、リニューアルを支えるスタッフ。



▲最新型MRI。患者さんが映像を見ながら検査が受けられます。



▲手術室



▲病床数75床(一般33床、回復期リハビリテーション病棟42床)



▲広いスペースの救急搬入口。



▲左から尤郁偉(脳神経外科)、佐藤恭一(循環器内科)、樋口隆一(外科) 溝上泰一朗(脳神経外科)、奈田慎一(血管外科)、上床武史(脳血管内科)、野田明生(整形外科)の先生方。

Plaza newsmaker 1256

医療法人 同愛会
サンテ溝上病院

佐賀市大財1丁目6-60
TEL/0952-24-5251(代)
脳神経外科、脳血管内科、内科、循環器内科、
血管外科、整形外科、外科、胃腸外科、肛門外科、
リハビリテーション科、予防医学健診センター